

京都大学 11月祭 講演企画

戦争と原発、



どう止めるのか

【講演】20km圏内の職場から

長岡達也さん（京都府職労舞鶴支部

執行委員長）



【報告】

京大反戦

バリスト!～



作部羊平君（京大同学会委員長）

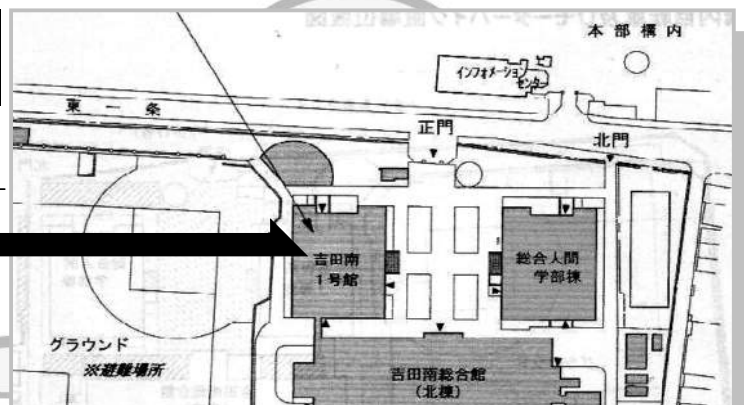
日時：11月22日（日）13:00～

会場：京都大学吉田南1号館

3階1共32講義室（参加無料!）

問合：kgakuren@yahoo.co.jp

主催：徹底討論-労働運動・学生運動実行委員会



8月11日、九州電力川内原発が再稼働されました。続いて、関西電力高浜原発が再稼働されようとしています。

福井地裁は4月14日に再稼働の即時差し止めの仮処分を決定しましたが、政府と関西電力の再稼働を進める方針に変わりはありません。

福島第1原発事故から5年が経とうとするいま、このまま原発の再稼働が進むことを看過してよいのでしょうか。



高浜原発から5～20km圏内に位置する京都府舞鶴市。再稼働に向けて避難訓練などが始まっています。

避難訓練を主導し、ヨウ素剤の全戸配布などを担うのは地元自治体の公務員労働者です。その中から、「これ以上、再稼働のための仕事をさせられるのは我慢ならない」という声上がり始めました。講演会では、労働組合としての闘いを報告していただきます。

9月19日、安倍政権は平和安全法など安保関連11法案を衆院で採決し、賛成多数で成立させました。

来年、7月の参院選よりも早く3月には施行され、5月に交代する自衛隊のスーダンP K O派遣部隊の任務に「駆けつけ警護」が追加されるといわれています。

朝鮮半島での軍事演習も激しくなっています。切迫する戦争情勢に対して黙って見ているしかないのでしょうか。



戦争への動きは、軍事研究への協力や学生運動への弾圧というかたちで大学にも迫っています。

10月27日、京都大学全学自治会同学会中央執行委員会の責任で京大反戦ストが行われました。安倍政権の戦争に対して大学から声を上げよう！

講演会ではストライキの決断に至った経緯と、その後の反響について報告してもらいます。